

ビタミンC60バイオリサーチ

林 源太郎 社長

化粧品素材の供給を行うビタミンC60バイオリサーチ(本社東京都林源太郎社長、03-3517-3251)は2月1日、浸透性に優れたリポソーム化用フラレン原料「モイストフラレン」をリニューアルし、100%植物由来の「モイストフラレン」として発売した。同社ではかねてより、フラレン素材の植物由来化を順次進めてきた。今回の発売で、フラレン全6素材の自然由来化が完了した。化粧品にも、「SDGs」「サステイナビリティ」「エコ」「ナチュラル」「グリーンビューティー(※参照)」といったことへの対応が求められるようになる中、同社のフラレン素材の注目度が高まっています。高まりそうです。同社の林社長に話を聞いた。

「モイストフラレン」の植物由来化が完了したというのだが。林 浸透性に優れたリポソーム化用フラレン原料「モイストフラレン」について、100%植物由来のリニューアールを完了、「モイストフラレン」として2月1日に発売した。これで、フラレン全6素材について、植物由来フラレンへのリニューアルが完了したことになる。

当社では、20年4月に、100%植物由来化した油性素材「リポフラレン」をリニューアルして以来、フラレン原料の植物由来化を順次進めてきた。主力の水溶性フラレン素材「ラジカルスポンジ」についても20年10月に、植物由来化し、「ラジカルスポンジ」としてリニューアル発売していた。ISO16128に基づき「自然由来指数」は、

各素材によって異なる。「リポフラレンN」「ヴェールフラレンN」「モイストフラレンN」の自然由来指数は、理論上の最高値である1(100%)となっている。植物由来化した原料を



剤は浸透性や肌なじみに優れており、保湿力も高い。角層深部での効果発揮が期待できる。美容液やクリーム、乳液などの配合に適しており、高付加価値ナイトクリームの開発などにも貢献する。他の有効成分を含有した

オリジナルのリポソーム製剤を作ることにも可能だ。皮膚への浸透性の高さや、バリア機能の回復促進作用、たるみ

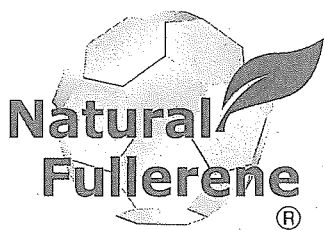
の改善作用、保湿作用などについては、データも取得済みだ。直近では、3D皮膚モデルを用いて、モイストフラレンを塗布した際の、線維芽細胞内のコラーゲン線維の観察を実施、モイストフラレン塗布群ではコラーゲン線維の引き寄せが起こっていることが確認された。たるみ改善作用のメカニズムの一端が明らかになった形だ。この試験結果については、20年10月にオンラインで開催された「IFSCC Congress 2020 Yokohama(第31回国際化粧品技術者会連盟横浜大会)」でも発表

「SDGs」にもマッチしたフラレン6素材

1%以上配合した化粧品には、「植物由来フラレンのロゴ」マークを別掲参照を表示できる。リニューアールした「モイストフラレン」はどのような素材か。林 ペースト状のモイストフラレンは、攪拌(かくはん)することにより、フラレンを高濃度に油層に含有させたリポソーム製剤を作ることができるという特徴を持っている。リポソーム製

「原料の植物由来化はどのように進めたのか。」林 フラレンの出発原料として、高級木材である、宮崎県産の杉を採用。木の使用量を抑えるために、森林の持続可能で健全な管理をするために制定されたクリーンウッド法に認定された企業で、ベレットに加工するようになった。素材製造時に

念にもマッチした素材になったことで、さらに好評をいただけているようになった。各素材とも、リニューアル後の価格を据え置きとしている点も、顧客業からは喜ばれている。



※クリーンビューティーとは、自然・天然の原料を使用するなど、環境に配慮した安全な化粧品などによる美容。

は、クリーンエネルギーといわれる水力発電、た電力を用いており、造時の環境負荷も低い。さらに、素材の容器についても、キャップ付アルミパウチを採用、用後の廃棄物の体積・量が8/9割低下した廃棄物の削減に貢献する。以前から機能性の高化粧品原料として人気高かったフラレン素材だが、「SDGs」「サステイナビリティ」「グリーンビューティー」といった新しい

特集 自然派化粧品を開発するには